

十勝地区国際理解教育研究会

# 事務局だより NO. 2

発行者 十勝地区国際理解教育研究会事務局

発行日 平成16年9月10日

連絡先 事務局長：久永恵子（帯広市立花園小学校 帯広市公園東町2丁目3 TEL0155-24-9123）

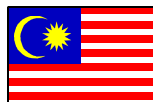
## 海外事情報告会

毎年恒例となっている、前年度に在外教育施設での勤務を終えられ、今年3月に帰国された先生の「海外事情報告会」が行われました。



冒頭、本間武会長より、報告者の山川修先生（鹿追小）とお友達2人のご紹介がありました。お友達お二人ともにマレーシアの方で、現在埼玉の大学に留学中で、先日から山川先生のお宅に遊びに来ている方だそうです。

## マレーシアでの教育活動



「今日来ている友人は、私がマレーシアにいたときに、当国政府が日本に派遣する留学生として教育をしていた人たちです。1～2年の内に高校2年生程度の日本語をマスターしたという、とても勉強熱心な2人です。」



「熱帯のマレーシアは、めずらしい・おいしい食べ物がいっぱいでした。パイナップルは芯まで食べられるんですよ。日本だったら芯をかじると舌がしびれたようになりますよね。どうしてあんなにおいしかったのか……わかりません。」

「マレーシアは、とても治安の良い、過ごしやすい国でした。派遣教員が『自分で車の運転ができる』というのも、アジアではめずらしいのではないのでしょうか。」

『カンポン（＝「田舎」の意）ホームステイ』と称した、小学校5年生以上の希望者に、マレーシ

アの田舎の家にホームステイさせるプログラムがありました。なかなか体験できないマレーシアの人々との生活、宗教や生活習慣の違いを肌で感じられるとてもよい機会でした。」

## マレーシアQ&A

Q「外国で、日本の理科の教科書を指導するのは、生物や天体など苦勞されましたか？」

山川「苦勞ではないのですが、5年生と天体観測をしたときに、南十



字星と北極星が一度に見られたという感動的な経験がありました。その他学校教育の中では、『餅つき』など、日本の行事を大事にするよう心がけました。」

Q「多民族国家のマレーシアでは、言語教育はどうなっているのですか？」

山川「ほとんどが私立学校のような所なのですが、マレー人が通う学校では、英語とマレー語を幼稚園から大学まで学びます。半分ぐらいの人は英語が話せませんし、英語ができないと就職するときに難しいですね。」

Q「(留学生のお二人へ)日本に来る前の想像と来てからの印象、どう違いましたか？」

ファリズさん「マレーシアにいたときにふれあった日本人はとても優しくったのですが、初めて日本に来て学校に入ると、アラアラアラ……。最初はちょっと冷たい印象でした。(十勝に来て、山川先生に再会したり、印象は変わりましたがね)」



(左から) アユニさん、山川先生、ファリズさん

\* 山川先生のレポートは、事務局でもお預かりしています。マレーシアでのことは山川先生に直接お尋ねになっても、いろいろ教えてくださいますよ(貴重な写真や衣装などもあるそうです!)

## 研究の秋



第25回北海道国際理解教育研究大会釧路大会 10月14日(木)～15日(金)

今年の全道研は、釧路市で開かれます。

本会からは、役員：本間武会長、提言：小川宣子先生、協力者：笹木卓三教頭・堀保夫先生が役員として参加します。

大会要項が各学校に送られていることと思いますが、お隣の地区での開催ですので、ぜひみなさん足を運びましょう。

第25回十勝地区国際理解教育研究大会 11月12日(金)

十勝地区の研究大会は、帯八中→花園小で行われます。

研究授業は、中学校3年英語(村山美智代先生・帯八中)、小学校2年ゆとりの時間(多治見忠先生・花園小)。もちろん、レポート発表による実践交流会も予定しています。

大会への参加はもちろん、運営や研究など、会員のみなさんそれぞれの分野での活動をよろしくお願いします。

新会員の紹介

吉田謙作先生

(清川小)

よろしくお願ひします